

現在入居している方と、
卒業して市内で活躍している方にお話を伺いました。

01

ダンジョデニム

福川太郎 卒業 入居／2017年8月～2021年5月

「好きなこと」を追求して、
ジーンズの聖地でブランドを立ち上げる。

「ダンジョデニム」は関東出身の福川さんが児島に移住し立ち上げたブランド。福川さんは「起業して売上が出てくるまでが大変」と言い、その期間を耐えられたのは「家賃や初期投資を抑えられた児島DIのおかげ」と振り返る。ほぼ洋裁未経験だったが、児島でジーンズを1本縫い上げるジーンズ縫製講座を受講し基本を学び、その後は独学で技術を磨いている。現在は古民家を改装した店舗兼工房で、Gジャンやパンツやコートなどのセミオーダーを手掛けており、顧客を増やしている。



02

UITU / SIGNETONES

浦田晃太郎 入居中 入居／2023年6月～

「どんな服なら着て楽しいか」。
お客様のことを真摯に考えた服づくり。

熊本出身の浦田さんはカジュアルウェアのユニセックスブランド「UITU(ユイツ)」や、ドッグウェアブランド「SIGNETONES」を展開している。専門学校を卒業後、児島でデザイナーとしてキャリアを重ねて児島DIに入居した。「僕の場合は一度就職してから起業したのが良かった」と話す浦田さん。現在はオーダーメイドがメインだが、今後は卸売も検討している。「児島には大小さまざまな縫製会社があり、オーダーから卸売まで色々なビジネスへの展開が実現できる」と、繊維産地で起業した強みを語る。



03

Acid House

長尾敦 入居中 入居／2024年1月～

「地域と人に恩返し」。
アイロン業と縫製業で大好きな洋服づくり。

児島の縫製会社で技術を積んだ倉敷出身の長尾さん。2023年に検品やアイロン仕上げを手掛ける会社「Acid House(アシッドハウス)」を児島で創業。同社の縫製部門として自社ブランドの立ち上げを目指し、児島DIに入居した。現在はカジュアルウェアのOEM生産が中心だが、3年後を目途に自社ブランドの取り組みも進める。起業を目指す人には「ぜひチャレンジしてほしい。でも、技術もあった方がよい」と言い、「児島で縫製に携われば、十分な技術が身に付く」と、産地の技術の高さも語ってくれた。

